

## I C T 授業活用教育実践

対 象	特別支援【小学部2・3年】
教科・領域	自立活動
単元・題材名	発音練習／文化祭の劇のせりふ練習
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ iPad を使って自発的に発音練習をする。</li> <li>・ 自分の役のせりふを手話や音声を用いて繰り返し練習し、自信をもって発表できるようにする。</li> </ul>
I C T 環境 (授業で使用した機器)	iPad (教師用1台, 児童用3台) , テレビ
利用したデジタル教材 (アプリ, サイトのアドレス, 資料など)	iBooks Author, iBooks, カメラ
授業での I C T 機器の活用 方法と手順	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 事前に児童の iPad の「iBooks」の中に口の動きや息遣いに関する教材を入れておく。</li> <li>② 授業にしたがって、iBooks 中の動画を参考に発音の練習を行う。</li> <li>③ カメラを使用して、それぞれの発音練習の様子を撮影する。</li> <li>④ 発音練習の様子を共有する。</li> </ol>
授業の工夫 (ポイント)	<p>発音指導の専門的な部分をパソコンのアプリ「iBooks Author」で電子教科書として作成することで、発音指導の経験が浅い教員でも発音指導のポイントを押さえながら指導できる。</p> <p>鏡を見ながら発音と同時に口の形を見るとときと比べ、発音の様子をビデオで撮影することで、大きな画面で表情まで確認でき、自身で手本と異なるところに気付いたり周りの児童が間違いを指摘したりできる。</p> <p>発音練習の時に、動画を用いることで自由に確認し、練習することができる。</p>
児童の様子	<p>iPad の使用については、以前から授業等で用いて操作に慣れるようになってきた。そのため、今回の教材も事前の説明がほとんど必要なく使いこなしている。ふだんは教師と一対一で発音指導をしているので、iPad と一対一の発音の練習には多少の違和感はあったと思うが、徐々に慣れてきている。</p>

## 実践案

配当時間		学習の進め方	指導のポイント
導入	5分	<b>本時の学習内容を知る</b> ・一人一台 iPad を使って発音練習をすることを確認する。	・一人一台 iPad を使って発音練習をすること、せりふの練習をすることを伝える。
展開	35分	<b>発音練習をする</b> ・教科書を読むように iPad にしたがって全員で発音練習を行った後、個別に発音練習をする。	・発音の練習の様子を聞き、曖昧な発音の時はもう一度練習するように指示をする。カメラ機能を用いて口形を撮影し、どのような口形になっているかその場で確認させる。 ・子音の発音要領練習は「パパマ」「タダナ」を中心に唇の動きや舌の調音点を意識できるように、発音サイン（主に息遣い）や口形文字を見せながら実際に手本を示す。 ・iPad を配布し「iBooks」を開くように指示をする。 ・一通り終わったら繰り返し練習するように指示をする。 ・個人練習後、まとめの発音練習のページを使って、もう一度全員で発音するように指示をする。
		<b>せりふの練習をする</b> ・文化祭の劇の役のせりふに手話を付けて繰り返し練習する。	・各自せりふを練習するように指示をする。 ・手話確認のため、各自の iPad に自分のせりふの手話動画を入れておき、各自で手話を見て覚えるように促す。 ・個別に練習の様子を確認し、介護員は手話表現が合っているか確認する。
まとめ	5分	<b>苦手な表現を再度練習する</b> ・母音や子音、せりふの苦手な部分を繰り返し練習する。	・最後に母音と子音の練習をさせる。 ・せりふに出てくる言い回しで発音しにくいところを繰り返し練習させる。

## 評価

児童について	児童の興味・関心	iPad を使って意欲的に授業に参加できた。
	児童の理解	動画や口形文字等を見て、口形を意識した発音ができた。
	児童の情報機器の活用度	各自で iPad を用いて、発音練習ができた。
授業について	事前準備の難易度	今回は発音指導の電子教科書作りを目標に「iBooks Author」を用いて一から作成した。そのため、文書作成においては発音指導に長けた教員に協力を仰いだ。事前準備としてはかなり時間を要し、難易度としてはかなり高度なものになった。
	指導者にとっての授業展開の難易度	発音指導初心者でも基本の発音指導ができるような作りにこだわった。今まで教師と一対一で行っていた発音指導を iPad が教師の役割の一部を担うことで、発音指導のベース部分が校内で統一された形になれば、授業展開は容易になる。
	授業の「ねらい」の設定は適切であったか	母音の口形指導におけるねらいはおおむね達成できた。自分の口形に気を付けて発音できるようになった。
	効果的な指導方法であったか	練習をビデオ録画することで、その場ですぐに振り返ることができ、鏡と違い何度も確認できることで、次の練習のときに各自が口形を意識して練習できていた。

### <実践の感想及び反省点等>

これまでの発音指導において iPad を使って指導したことがなかったので、反応があるかどうか心配していたが、想像していたよりも児童の反応がよかったので安堵した。今までの発音指導は教師と一対一が基本のスタイルなので、児童も戸惑いがあったと思うが、発音指導ということが分かるとはっきり声を出して一生懸命に練習していた。

今回の実践に当たり、発音指導の先生に画面に提示する際に注意すべき点を確認しながら教材を作成した。特に口形は微妙な差であるため、調整を重ね現在の形に落ち着いた。初心者でも分かりやすく指導しやすいスタイルにこだわった。

多くの先生に御参観いただき評価点や改善点を伺うことができた。評価点の多くはインカメラの使い方、鏡とビデオカメラを併せもつことで、リアルタイムで見ることと同時にその場で振り返りに使える点はとてもよい方法であると評価いただいた。改善点は、①テレビを使うことで、教師が画面を指差しながら児童の口形を見るのは難しいので、口形を見ることに専念できるような提示の仕方を工夫すること、②まとめの課題数が多いので、もっとポイントを絞って少なくすること、③後半の劇のせりふ練習では、自分のせりふ以外のところにも文字を提示し、色分けをするなどの工夫をして自分と相手が見て分かるようにすること。また、反省点は後半、手話に専念してしまい「声を出してね」の言葉掛けを忘れてしまったことである。音声が消えたことは非常に残念だったと御指導をいただいた。今後、改良を重ねより分かりやすいものにしていきたい。